

はなわししおど 花輪鹿子踊り

- ◇ 指定日 平成6年11月21日
- ◇ 所在地 花輪
- ◇ 保持団体 花輪鹿子踊り保存会

ねじょうだて
根城館に居を構えた閉伊頼基の家臣、花輪次郎なる者が芸を好んで旅をし、越後から習い覚えたのが始まりといわれています。

寛永8年(1631年)には、花輪殿様で知られる南部29代しげのふ重信公が、花輪から盛岡へ向かう時の御供につき、盛岡城の御前で披露して南部家のく九

ようもん むかいづる曜紋と向鶴の家紋の使用を許されたといわれています。また宝暦年間(1750-1763年)には、花輪に生まれた踊りの名手伊藤佐吉がさらに工夫を重ねて、かくちょう格調ある踊りに完成させたといわれています。

鹿子の踊り手は、一番太夫から三番太夫、雌鹿子、おさえ2人、側鹿子6人の12人、太鼓は2・3人で構成されます。

演目…庭廻り・一番庭・二番庭・三番庭・四番庭・笹ばみ・牝鹿子狂い・綱懸り・柱懸り

